

## 夏目漱石没後 100 年記念事業 国際エッセーコンテスト「漱石とわたし」受賞者招へい 漱石作品に影響を受けた入賞者5名を日本に招へい ゆかりの地を訪ね、その魅力を見つめなおす

夏目漱石没後 100 年を記念して、国際交流基金(ジャパン・ファンデーション)は朝日新聞社、岩波書店、フェリス女学院大学と共催で下記の通り記念事業を実施します。漱石作品に影響を受けた海外の日本語学習者を日本に招き、漱石ゆかりの地を訪ねるほか、国内外で漱石作品がどのように読まれ、いまなお人々にどのような影響を与え続けているかについて国際シンポジウムを開き、漱石作品の持つ魅力に多角的に迫ります。

主要事業である漱石国際エッセーコンテストでは、日本語を母語としない人々から「漱石とわたし」をテーマに日本語エッセーを募集。応募 72 点の中から入賞8点を決定しました。国際交流基金は入賞上位 5人(次頁)を 12 月 5 日(月)～12 日(月)の8日間、日本に招へい(ただし、最優秀者は愛媛県在住)。滞在中は漱石が参禅した鎌倉・円覚寺や作品の舞台として登場する京都の景勝地など漱石ゆかりの地を訪れるほか、神奈川近代文学館、鎌倉文学館などを訪ねてその足跡を辿る予定です。12 月 10 日(土)には、東京・有楽町で授賞式を執り行います。

※招へい期間中は随行取材可能です。また授賞式当日は、報道関係者席をご用意しております。参加をご希望の場合は事前に [Fax: 03-5369-6044](tel:03-5369-6044) または、[E-mail: press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp) にて出欠のご連絡をくださいますようお願い申し上げます。

### ■入賞者招へい日程 12月5日(月)～12日(月)

12月5日(月)	来日。都内滞在
6日(火)	京都へ。平八茶屋、敦賀街道散策。
7日(水)	嵐山、天龍寺散策。午後、東京へ
8日(木)	鎌倉・円覚寺、鎌倉文学館、神奈川近代文学館
9日(金)	国際シンポジウム(フェリス女学院大学)
10日(土)	授賞式
11日(日)	都内滞在
12日(月)	離日

### ■漱石国際エッセーコンテスト授賞式

【日時】	2016年12月10日(土) 12時30分～13時30分(開場:12時～)
【会場】	同会場では授賞式後、国際シンポジウム「世界は漱石をどう読んでいるか？」が開催
【入場】	有楽町マリオン・朝日ホール(東京都千代田区有楽町2丁目5-1 有楽町マリオン 11F) 無料

●本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 日本研究・知的交流部 企画調整・米州チーム(担当:西松、竹原)  
Tel: 03-5369-6069 / FAX: 03-5369-6041 / Email: [americas@jpf.go.jp](mailto:americas@jpf.go.jp)

●ご取材に関するお問い合わせ: 国際交流基金 コミュニケーションセンター(担当:伊藤、森)  
Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

●漱石国際エッセーコンテストに関するお問い合わせ: 朝日新聞社 読書推進事務局  
Tel: 03-5540-7985

<上位入賞者> (敬称略)

<b>最優秀賞:</b> ステファニー・エリカ・チャベス (27歳/女性)	カナダ出身。愛媛県英語指導助手。大学生の時、「草枕」を読んで漱石ファンに。日本語力向上のためにJET(英語指導助手)プログラムに応募し、漱石ゆかりの四国赴任を希望したところ、漱石が暮らした松山赴任が決まった。
<b>優秀賞:</b> チェルシー・バーナード (25歳/女性)	米ニューヨーク在住。日英翻訳・通訳業。初めて読んだ漱石の作品は「三四郎」。九州の片田舎から東京に上京した三四郎と、米メイン州からコロンビア大学(ニューヨーク)に進学した自身を重ねる。
<b>優秀賞:</b> 何婕(か・しょう) (24歳/女性)	中国北京在住。大学院生。早稲田大学に留学経験。がんばりで融通の利かない父に以前は嫌気がさしていたが、「坊ちゃん」を読んでから、その不器用ながらも正義感あふれる性格を父と重ね合わせ、父を尊敬するようになる。
<b>佳作:</b> 曹亜輝(そう・あき) (47歳/女性)	中国天津在住。大学准教授。北京日本学研究中心卒業生。好きな作品は「三四郎」。「こころ」にも大きな感銘を受け、友人と熱心に「恋は罪悪か」やKの自殺の理由について議論したことが記憶に残る。
<b>佳作:</b> マリーナ・カザコフ (23歳/女性)	モスクワ在住。大学院生。好きな作品は「夢十夜」「こころ」。漱石作品に見る表現から日本人の価値観や日本の心に触れる。自身が大学卒業後の人生の岐路に立つ中で、漱石作品の主人公たちに共感を覚える。

<参考情報>

「第10回フェリス女学院大学日本文学国際会議  
夏目漱石国際シンポジウム」

【前夜祭】基調講演「世界文学としての夏目漱石」

- 【日時】 12月8日(木) 14時～
- 【会場】 フェリス女学院大学緑園キャンパス8号館グリーンホール
- 【登壇者】 小森陽一氏(東京大学)

【第一部】「漱石は世界をどう読んだか？」

- 【日時】 12月9日(金) 10時～
- 【会場】 同上
- 【登壇者】 田久保浩氏(徳島大学)、大野英二郎氏(フェリス女学院大学)、林少陽氏(東京大学)、夏目房之介氏(学習院大学)、飯田祐子氏(名古屋大学)

【第二部】「世界は漱石をどう読んでいるか？」

- 【日時】 12月10日(土) 13時45分～
- 【会場】 有楽町マリオン・朝日ホール
- 【登壇者】 マイケル・ボーダッシュ氏(米・シカゴ大学)、キース・ヴァインセント氏(米・ボストン大学)、安倍オースタッド玲子氏(ノルウェー・オスロ大学)、朴裕河氏(韓国・世宗大学)、李広志氏(中国・寧波大学)

◇会場では学校法人二松学舎が大阪大学石黒浩教授らと製作した「漱石アンドロイド」が一般公開されます。

※「夏目漱石国際シンポジウム」のプログラム詳細は、別紙資料またはフェリス女学院大学公式サイト(<http://www.ferris.ac.jp/>)をご覧ください。



●シンポジウムに関するお問い合わせ: フェリス女学院大学 企画・広報課 Tel: 045-812-9624

**【取材申込書】**

**国際交流基金 漱石没後 100 年事業**

**Fax 送信先: 03-5369-6044**

**E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)**

\* ご多忙中誠に恐縮ではございますが事前に Fax またはメールにて、出欠のご連絡をくださいますようお願い申し上げます。

ご出欠	<p>■エッセーコンテスト授賞式 (12月10日)</p> <p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>ご出席      <input type="checkbox"/>ご欠席</p>		
	<p>■招へい事業 (12月5日～12日)</p> <p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>ご取材      <input type="checkbox"/>ご欠席</p> <p><small>(取材をご希望される日程・場所をご記入ください)</small></p>		
撮影	希望する	<input type="checkbox"/> VTR	<input type="checkbox"/> スチール
ご所属			
ご芳名			
TEL/FAX			
MAIL			

●本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 日本研究・知的交流部 企画調整・米州チーム(担当: 西松、竹原)  
Tel: 03-5369-6069 / FAX: 03-5369-6041 / Email: [americas@jpf.go.jp](mailto:americas@jpf.go.jp)

●ご取材に関するお問い合わせ: 国際交流基金 コミュニケーションセンター(担当: 伊藤、森)  
Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

●漱石国際エッセーコンテストに関するお問い合わせ: 朝日新聞社 読書推進事務局  
Tel: 03-5540-7985